

に、図右のCT像の太い白色矢印と矢頭で示した部分は図左の胸壁3D像では、縦軸（頭足）方向に進展している胸膜プラークであることが容易に理解できる。またプラークの全体像も明瞭に把握できる。一方CT像の細い白色矢印部分は、この図で見る限り、胸膜プラークを明瞭に否定することは困難と思われる。しかしこの所見は、図左の胸壁3Dでは、胸膜プラークではなく肋間静脈であることが明瞭に示されている（図3）。

われわれはこの胸壁3D表示法を用いた研究から、胸膜プラークの発生部位は、前壁、側壁に比して後壁で最も頻度が多く、胸膜プラークの発生部位と肋骨の高さとの関係には特徴があることが示された。すなわち、前壁では第3～第4肋骨部、側壁では第6～第7肋骨部、後壁では第7～第10肋骨部に好発し、合計すると第4～第9肋骨の高さに相当する部位の頻度が多く、第7～第10肋骨部に好発するとのこれまでの報告とは異なることが明らかになった。さらに胸膜プラークの進展する方向は、頭足方向を縦軸、肋骨に平行する方向を横軸とすると、後壁の胸膜プラークは縦軸方向に、また側壁のものは横軸方向に進展することが明らかになった。また後壁に生じる胸膜プラークが、他の部位に生じるプラークに比べて大きい傾向のあることも明らかになった<sup>7)</sup>。

## おわりに

じん肺は決して過去の病気ではなく、特に石綿に関連する疾患は、今後30年前後は継続ないしは増加することが懸念されている。また近年歯科技工作業に伴うじん肺や、超硬合金肺さらには液晶画面製造に関連するインジウムによる肺障害などの報告例がみられる。粉じん作業に関連する疾病には、どのような疾病があるのかを理解しておくことが必要であるが、診療にあたっては職業歴を詳細に聞き出すことも重要であることを改めて強調したい。

## 文 献

- 1) 中野郁夫、他：日職災医誌, 61:236-242, 2013.
- 2) 労働省安全衛生部労働衛生課編：じん肺診査ハンドブック、東京、中央労働災害防止協会、pp20, 98-100, 1978.
- 3) 中野郁夫、他：日職災医誌57:246-250, 2009.
- 4) 宇垣公晟、他：日災医誌38:165, 1990.
- 5) 厚生労働省労働基準局、労災補償部補償課長、基発第0329第2号通達
- 6) 本田広樹、他：日職災医誌, 55:49-54, 2007.
- 7) 本田広樹、他：日職災医誌, 57:203-209, 2009.

## 新規指定医療機関

### ●平成25年7月1日

医療機関名称	所在地・電話番号	開設者・管理者氏名
かんし眼科医院	060-0062 札幌市中央区南2条西4丁目12-7 ☎011-241-2413	柳 比奈子
松井眼科医院	070-0033 旭川市3条通9丁目1704-7 ☎0166-23-4242	松井 英一郎

### ●平成25年8月1日

医療機関名称	所在地・電話番号	開設者・管理者氏名
社会医療法人禎心会 さっぽろ北口クリニック	060-0807 札幌市北区北7条西2丁目8番地1 札幌北ビル ☎011-709-1131	社会医療法人禎心会 武田 利兵衛
おおさか内科クリニック	062-0053 札幌市豊平区月寒東3条16丁目3番10号 メディカルセンタービル2階 ☎011-855-2580	大坂 康博
メンタルクリニック札幌大通	060-0062 札幌市中央区南2条西4丁目11番 桂和MTビル3階 ☎011-205-0757	高橋 玲緒奈
柏陽診療所	066-0054 千歳市柏陽4丁目3番 ☎0123-25-6707	小田切 徹太郎